

都市構造可視化についての検討

～可視化ツールに触れてみて～



香川県
丸亀市 都市計画課

1.活用事例

誘導区域設定に関する活用



中心市街地において設定されている、誘導区域の設定について、ハザードデータ等を重ね合わせ、現在設定されている区域の見直しの必要性の検討に活用してみました。

丸亀市のシンボルである「丸亀城」から中心市街(北側)を望む景色

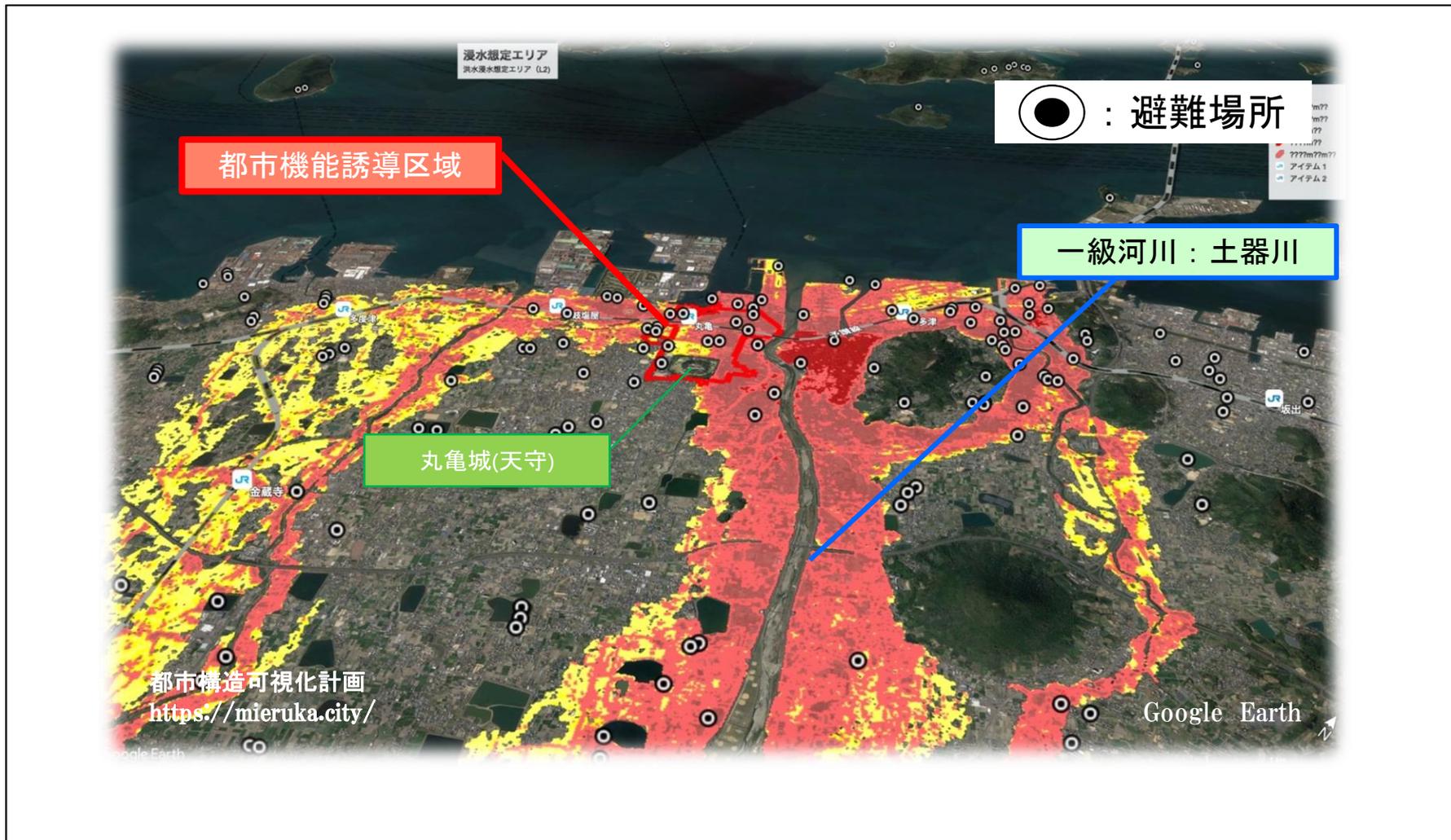


今回は想定最大規模(L2)の洪水ハザードエリアを重ね合わせてみた

丸亀城から見える中心市街地のほとんどがハザードエリアに入っている・・・。

2.市域全体での状況

中心市街地以外も含めた状況



4. その他のデータの重ね合わせ ②

ハザード以外の情報も含めてみた(高齢者分布)

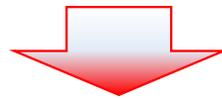


ハザード情報に加え、高齢者の分布データを重ねたところ、近年郊外でも増加傾向にあるものの、古い町並みとなっている中心市街地に最も多く高齢者が居住していることが分かる。

5. 誘導区域設定の検討

これらの結果を踏まえて

- 現在の誘導区域設定は最大規模の災害を想定した場合、洪水データだけで大半がハザードエリアに含まれることが判明。
- 人口分布データや、高齢者分布データからも実際の災害時（特に高潮や津波等と同時発生した際）には多くの人的・経済的被害が想定される。



- ◎丸亀城を中心とした、中心市街地の位置づけは変更できないことから、可能な限り経済的、人的被害を軽減する対策を検討することとし、誘導区域は維持していきたい。
- ◎立地適正化計画に追加を予定している「防災指針」において、将来に向けた、防災・減災の取組みの参考とする。

6.都市構造の可視化に触れて

<可視化ツールの利用に関する利点>

- 地図上に様々な情報を重ね合わせて表示できることから、視覚的に確認でき理解が深まりやすい。
- 地元、審議会委員、内部説明会でも活用できそう。
- 3D都市モデルと合わせて可視化すればより分かりやすい資料作成が可能となりそう。

<可視化ツールの利用に関して感じた課題>

- より細かいメッシュデータがなければ細やかな検討がしづらい。
- 使いこなすためにハード(高性能PC)やスキル、各種データを準備する必要がある。



丸亀うちわ



丸亀名物骨付鳥



丸亀城



とり奉行 骨付じゅうじゅう